深い学びのために

学習のポイントの解答例

1 **「指も損なはれぬべし。」（七七・4～5）とあるが、どのような心情が表現されているか、考えてみよう。**

【答】 天候が悪く、何日も同じところで足止めをしなければならない状態を悲嘆している。このままだと、日にちを数えるのに何回も指を使って、指を痛めてしまうと諧謔味を込めて表現している。故郷へ帰るだけに余計に望郷の念が募る心情が表現されている。

▼ポイント▲ 心情を問われている。本文を取り入れながら、その部分に即した心情を考えるとよい。

2 **「二十日の夜の月出づるまでぞありける。」（七七・9～10）とあるが、どのような状況だというのか、「二十日の月」の出がいつ頃かを調べたうえで、考えてみよう。**

【答】 二十日の月は午後十時を回らないと出て来ない。つまり、長時間にわたって、別れを惜しんで、送別の宴をはっていたことを表現しようとしている。

▼ポイント▲ 月の出は季節によって多少異なるものの、新月の時が朝八時ごろでそれから少しずつ遅くなる。十五夜の満月の時が午後六時ごろで、もっとも月が見やすい。また、この場面では作者が実際に二十日の月の出の様子を見ながら、同じ状況の仲麻呂のことを思い出すという趣向となっている。

3 **「心をや聞き得たりけむ」（七八・2～3）とあるが、誰がどうしたのいうのか、説明してみよう。**

【答】 かの国人（唐の人々）が、仲麻呂の歌の意味を理解した、ということ。

▼ポイント▲ 「心」はその前の「言の心」（七八・1）のこと。大和言葉で書かれた和歌を漢語（漢文）に翻訳して、通訳に伝えさせたということである。

言葉と表現の解答例

1 **次の各文を傍線部に注意して、それぞれ現代語訳してみよう。**

(1) **指も損なはれぬべし。（七七・4～5）**
(2) **船に乗るべき所にて（七七・8）**
(3) **月の影は同じことなるべければ（七八・4）**

【答】 (1) 指までも傷めてしまいそうだ。(2) 船に乗るはずの所で。(3) 月の光は同じであるはずであるから。

▼ポイント▲ (1) 意味は「推量」。強い推量で「～するに違い

ない」などとも現代語訳できる。(2)　意味は「当然」。このような用法を「予定」と考えることもある。(3)　意味は「当然」。

言語活動の解答例

1　**「青海原」「都にて」のそれぞれの歌に込められた心情を考え、作者がなぜ「青海原」の歌を日記に引用しているのか、話し合ってみよう。**

【答】（意図）和歌に込められた心情を読み取ると二首の和歌に込められた心情が共通していることが分かる。そこから阿倍仲麻呂の話の引用の理由を考える。

（手順）

1　それぞれの和歌を読解したうえで、そこに込められた心情を考える。二首に共通しているのはなかなかたどり着けない故郷への思いである。

・青海原……青々とした大海原のはるかかなたの空を見渡すと、ちょうど今上がってきたあの月は春日にある三笠山の上に出た月と同じ月なのだなあ。

・都にて……都では稜線から出るのを見た月であるが、ここでは波間から出て波間に沈むことだよ。

2　二首に共通した心情を理解したうえで、自分の歌に先立って阿倍仲麻呂の歌を引用した理由を考える。作者の現在置かれている、故郷へ向かっているのに天候の関係で足止めされ思うようにならない状況が、阿倍仲麻呂の唐からの日本への帰国が思うようにいかず、望郷の念に駆られている状況と重なり、自分たちの思いが分かりやすく説明されるのではないかと考えている。

（ゴール）故郷への思いは時代を超えて共通であることを読み取り、自分たちの住んでいるところへの愛着を感じさせるようにしたい。

▼ポイント▲　まず、和歌を現代語訳したうえで、共通の心情が読み取れることに留意する。さらに、作者と仲麻呂が置かれた状況にも共通点があることに気付けば、和歌を引用した理由が考えられる。

（畠山　俊）